

特集：アセアン横断型グローバル課題挑戦的教育(TAG)プログラム

TAG パイロットプログラムに参加して —熱帯地域の生物について—

山田 宗樹（筑波大学 生物学類 4年）

この度TAGパイロットプログラムに参加して、約1週間マレーシアを訪れました。マレーシアを訪れたのは初めてで、見るものが全てが新しく、驚きに満ちていました。ここでは特に、現地で見ることのできた生物について簡単に紹介したいと思います。

ぶら下がっているのは・・・

訪問の前半に訪れた、マラヤ大学のキャンパスは筑波大学さながらの広大なキャンパスをもちます。構内を歩くと、赤い幹をもったヤシの仲間ヒメショウジョウヤシ (*Cyrtostachys renda*) や束になって生える竹の一種 (*Bambusa vulgaris 'vittata'*) など見慣れぬ植物ばかり。そんな中、黄色の花を沢山つけた木が目にとまりました。よく見るとこげ茶色をした棒のようなものがぶら下がっています。近づいてみると、なんとそれは巨大な豆の莢(さや)でした。これはマメ科の *Cassia fistula* という植物で、莢は60 cmに達するそうです。またキャンパスの池の畔では、大型のトカゲ(オオトカゲの一種?)に出会いました。みな大興奮でカメラのシャッターを切りましたが、こんな光景も日常的なものなのかも知れません。



*Cassia fistula*の花(左)と莢をもつ出川先生(右)

毛虫のついた花・・・!?

旅の後半ではマレーシア科学大学を訪問しました。こちらのキャンパスも現地の学生の案内で散策しましたが、ここで一番驚いたのは“Cannonball Tree”こと *Couropita guianensis*です。上から垂れ下がるように伸びた枝が複雑に絡み合う中に、ワインレッドの花弁をもった奇妙な形の花が咲いていました。手前に大きくせり出した部分に雄しべがぎっしり並んだ独特の形をしており、これまで見たことのある花の形と大きく異なるのに驚きました。側にあったメロンのような大きな果実はまさに砲弾(Cannonball)でした。



“Cannonball Tree”の花(左)と果実(右)

大きな落とし物

マレーシア科学大学の長尾先生に案内していただいた数々のフィールドはどれも印象的でした。私は普段菌類の研究をしているので、多様性の宝庫である熱帯雨林は様々なキノコやカビの仲間であふれていると想像し、期待に胸を膨らませていました。しかし3ヶ月近く降雨のない状況で、地面はからからに乾き、期待していたようなキノコは見られませんでした。それでも大きな葉を広げたショウガ科の植物、巨大なヤスデ類やサソリの仲間が熱帯らしさを感じさせてくれました。中でもアジアゾウの糞は迫力があり、糞の巨大さは姿の見えないゾウの巨大さを想像させるに充分でした(もちろん糞の一部は持ち帰り、菌の培養を試みました)。



ゾウの糞に群がる人々

ザ・食虫植物

最後に訪れた山、Gunung Jeraiの湿地には、ミミカキグサやネペンテス属などの食虫植物が自生していました。ネペンテスとはいわゆる「ウツボカズラ」のことです。鉢植えを見たことはあっても、いざ自生している様を見るとやはり新鮮な驚きがあります。昆虫を捕らえるために特殊化した葉を自生地で見、生物進化の成せる技に圧倒されました。またここで採集したブユを解剖し、腸内に生息しているハルペラ目の菌類も観察しました。これには現地の学生も驚いておりました。

ここまで印象が強かった生物を列挙してきましたが、今回取り上げることのできなかつた“感動”がまだまだあることを付け加えねばなりません。また今回の訪問では熱帯地域の生物多様性のごく一部を垣間見たに過ぎません。これら生物たちに再びお目にかかりたいと願うと同時に、未だ見ぬ熱帯の生物たちに、再び思いを馳せる今日この頃です。

Communicated by Yosuke Degawa, Received April 18, 2014.